

自然を活かしたまちづくり

—金武町での実践から学ぶ—



2025年6月21日（土） 14:15-16:45

金武町立中央公民館 大ホール

および オンライン 【無料】

沖縄県金武町の億首川河口域のマングローブ林は、南国のエキゾチックな雰囲気味わえるカヌー体験の場として大勢の人を集めています。また、マングローブ林やその周辺に広がる水田などの湿原は野鳥の宝庫となっていて、日本国内に限らず、海外からもたくさんのバードウォッチャーが訪れています。これら「観光インフラ」として地域の産業・暮らしを支える自然を、健全な状態で活用し続けていくための保全のあり方について、地域の観光事業者、行政、研究者等が時間をかけて話し合い、知恵をだしあってきました。その協働の成果は、「第5次金武町総合計画 後期基本計画」や「億首川マングローブ保全再生・活用計画」に反映され、町全体で具体の活動に踏み出しています。日本の中でも類をみない金武町での取り組みから、自然を活かした持続可能なまちづくりのあり方を見出します。

参加申込み：Peatixより申し込んでください。

<https://jale-2025.peatix.com/> チケット

→ 一般・学生 公開シンポジウム（無料）のみ参加（オンライン）を購入



【開会挨拶】 仲間一（金武町長 / 共同大会長）

【趣旨説明】 岩浅有記（大正大学）

【基調講演】

マングローブ林の活用・保全枠組みの創出過程—協働を促すコミュニケーション技術

鎌田安里紗（慶應義塾大学）・鎌田磨人（徳島大学）

【講演】

観光資源としてのマングローブ林

外間慎二（ふくらしやや自然体験塾）

湿地（マングローブ林と水田）の野鳥とビジターの広がり

原戸鉄二郎（沖縄ネイチャーオフィス）

観光インフラとしてのマングローブ林を保全するための町の取り組み

神田康秀（金武町商工観光課）

地域が主役の新しい観光

—アドベンチャーツーリズム

岩浅有記（大正大学）

【総合討論】 進行 丹羽英之（京都先端科学大学）

【まとめと閉会挨拶】 鎌田磨人（徳島大学 / 共同大会長）

